



野外活動を通してたくましい子に

太陽の子少年団結成さる

小学生中高学年を中心に八十余名参加

小須戸町における五番目のスポーツ少年団がスタートしました。これは、柔道、剣道、庭球、サッカーの各スポーツ少年団に続く「野外活動少年団」で、野外活動を通して、子どもたちの健全なる体力と精神を養成することを目的として結成されたものです。まず、今年度初めに世



話人会がつくられ、何回も会合を行って原案が作成されました。続いて、七月十二日に中央公民館において父母多数が参集し、育成会が結成されました。育成会々長には、発起人の一人でもある星田金雄氏が選出され、以下副会長・事務局長などの本部役員のほか、各支部役

クラシック&ジャズ

レコード・コンサート案内
クラシックは8月22日(金)
ジャズは8月23日(土)

クラシック
日時 八月二十二日金曜
午後七時三十分
会場 中央公民館二階
祝聴覚室
曲目 一、セビリアの理髪師(ロッシニ)
作曲 二、幻想交響曲(ベルリオーズ)
作曲 三、ヴァイオリン協奏曲(ベートーヴェン)
作曲 四、夏の夜の夢(メンデルスゾーン)
作曲 五、モクソニアス(モントゥーリ)
ジャズ
日時 八月二十三日土曜
午後七時三十分
会場 中央公民館二階
祝聴覚室
曲目 一、オーディオと音楽を楽しむ会

三文民謡愛好会が

おさらい会を行う

鎌倉民謡同好会、うで舞や梅踊りなどは、町のこき民謡つきき会、新津市田家茶の花会が一体となつて、三文民謡愛好会が新しく生まれました。

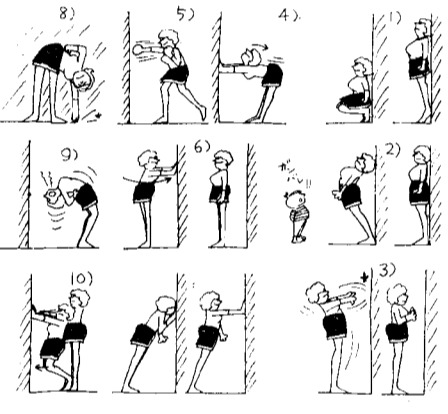
その第一回おさらい会が、去る七月十三日、中央公民館で開催され、五十嵐善一会長挨拶、来賓間野中央公民館長の祝辞に続いて、盛沢山のプログラムが次々とステージを彩りました。また、親善の意味をもつて、民謡節歌会、鎌倉神楽舞、長寿大学民謡クラブの賛助出演がありました。特に鎌倉の民謡



明るい小須戸町は

まず健康から

町民体力づくりキャンペーン



【青年通信】

「青級レコード鑑賞、好評博す」
コンテスト参加でガンバル無線ク
恒例のキャンプ・大繁盛記
楽しい夏休みの思い出となった。八月二三日には、中央公民館において無線のコンテストに参加し、優秀な成績を納めた夏休みの宿題は大丈夫かな?



青年学級
レコード鑑賞
学習会にて
小須戸町では最初の、ロック&ポップのコンサートがある聞き、数人の友人と興味深く出かけた。テクノポップで開幕、ブレイヤーを二台たくみに操作する田中さんの技術。時間をおいて上映された映画。役員の温かいサービス...
各団体恒例の
キャンプ大会
サークルつくしんぼが角田浜へ、天ヶ沢青年会が笹川流れへ出かけた。また、小須青年会も恒例のキャンプを角田浜で行った。結果的に、角田浜でつらな小向が出合ったがお互いのおかずがとてお気になったとか

- ① 壁にビタリと背中をつき、踵を浮かす。そのまゝ、しゃがんで、お尻を踵につけます。
② 壁に背中をつき、頭を壁に入れてお尻を突きだして体全体を弓なりに反らせます。
③ 壁に向って立ち(約20センチの距離)、手の平と壁とブツンクをします。
④ 足を肩幅に開き、上体をのびたまま前に倒して手の平を壁につけ、頭を強く起こします。
⑤ 壁に向ってシャドウボクシングをします。うっかりすると、拳が壁に当たって痛い思いをするので注意すること。
⑥ 壁に背を向けて立ち

図書案内



- ◆ 青じろい季節 仁木 悦子
◆ 虚無の標的 森村 誠一
◆ 環状特急死神号 島田 一男
◆ 越後替女唄冬の旅 村山富士子
◆ 星のない街路 北村 杜夫
◆ 旅は道づれガンダール 松山善三・高峰秀子
◆ ひまつぶし 咲笑読本 しろうきねお
◆ 釣り六十年 西園寺公一
◆ 暮に強くなるろう 石田 芳夫
◆ 老化・動脈硬化のすべて 大友 英一
◆ 若さを生む特效ビタミン 杜快編集部編
◆ 医者にも言わせてほしい 志賀 貢
◆ 長生きと健康 一〇〇話 榎山 忠利
◆ 自然を生かす健康料理 九六選 小室美智世

中学生文芸

八月旬会報

草むらのかすかな光螢の火
真夜中にひんやりとした夏の風
草の中ひめじょおんの高く咲き
マールレット花も終りの時季となる
かぶと虫隠れていても見つけられ
風鈴の音鳴り響く夕涼み
電球の光に集う虫の群
いねむりしブルの鈴鳴り目を覚ます
たんぼ道風とおしきり稲の声
扇風機そろそろみんなの人氣者
百合の花向きを揺れて咲き並ぶ
あじさいの色さまさまに咲き並び
幼女たちあおいの花の髪飾り
あじさいが雨浴び光る木々の中
風鈴の音にひかれて人来る
楽しいにプールで泳ぐ小学生
涼風の開けた窓よりとびこんで

八月旬会報

小須戸町俳句同好会

心臓を喰い越後の暑に對す
畝高く飯作田の茄子の花
いく筋も蛇の衣あり畦を刈る
良寛書掛けた旧家の夏座敷
嘔吐して妻旅立ちぬ朝朝公
雲の峰能登より佐渡をつなぎけり
雲の峰一村呑みし破堤あと
青田風株間の水の細くして
まばたかぬ牛の濁り腫合飲の花
さみだれて蛙ひと声高くなき
乗る馬も降りたる馬にも立栗
あきたれ子だされたわあまかえる
書院窓辰砂の壺に白菖蒲
送別の宴果て紫陽花咲く道を
茄子漬けて人の幸を凡に生く
となり田の人と戀えば遠郭公
手花火に屈む親子を浮き出しぬ
梅もぐや新梢の伸びすがくし
松が伸び放題に梅雨中休み
汗ばみし泣く孫抱いて犬を見に
夏み堂歩いて豊敷かぞう
また急に暗くなりたる梅雨ごもり
断崖を霧の下り来る若葉雨
農捨てて久し青田にひかれけり

燈籠祭り

我妻清作

燈籠押す人の姿も見る人もせめぎ押し合ふ声
にのまるる